



2024年7月29日

各 位

会社名 アキレス株式会社
代表者名 代表取締役社長 日景 一郎
(コード番号5142 東証プライム)
問合せ先 常務取締役管理部門統轄兼CSR担当
兼経理本部長 河野 和晃
(TEL 03- 5338- 8238)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2024年7月29日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、当社の現状を評価・分析し、企業価値向上に向けた今後の方針・具体策について決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 現状認識

当社は、会社の基本方針である企業価値の向上を図るため、収益性と資本効率を重視し、売上高営業利益率、自己資本利益率(ROE)、総資産経常利益率(ROA)の改善に努めております。

直近5年間の連結売上高営業利益率、ROE、ROAは以下の通りであり、2023年3月期以降は損失計上によりそれぞれマイナス数値となっております。

PBRは直近5年間を通して1.0倍を下回る水準が続いております。利益率の低さや当社の企業価値向上への取り組み・成長戦略を十分に示せていないこと等が要因であると認識しております。

【連結経営指標】

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
売上高 (百万円)	80,225	73,617	75,953	82,917	78,607
営業利益 (百万円)	1,602	1,569	855	△713	△958
売上高営業利益率 (%)	2.0	2.1	1.1	△0.9	△1.2
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	1,895	3,215	1,525	△1,204	△8,210
ROE (%)	4.6	7.3	3.2	△2.6	△19.1
ROA (%)	2.8	2.8	2.0	△0.1	△0.2
1株当たり純資産 (円)	2,632.34	2,952.98	3,049.81	3,085.80	2,764.61
期末株価 (円)	1,753	1,484	1,266	1,355	1,543
PBR (倍)	0.67	0.50	0.42	0.44	0.56

2. 改善に向けた方針・目標と具体的な取り組み

当社は、PBRの改善に向けて以下の取り組みを強化し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現を追求してまいります。引き続き、中長期的な定量目標の設定・開示について検討を進めてまいります。

【概要】

(1) 事業戦略

- ① 成長事業の育成・強化
- ② 新規事業(用途)の確立・創出
- ③ 既存事業の再構築
- ④ 経営基盤の強化

(2) 財務・資本戦略

資本効率性の向上及びバランスを考慮した財務・資本戦略の実行

(3) 非財務戦略

- ① サステナビリティ経営の推進
- ② ステークホルダーとの対話、情報開示の充実による成長ストーリーの共有

【詳細】

(1) 事業戦略

① 成長事業の育成・強化

[1] 脱炭素社会に向けた事業の強化

- 1) ZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）実現のための断熱資材事業の強化
- 2) バイオマス・生分解性素材事業の拡大
- 3) 既存プラスチック製品のリサイクル化の推進
- 4) EV向け車輻資材事業の強化

[2] 海外事業の拡大推進

- 1) 米国 ACHILLES USA, INC.・・・医療用フィルム
- 2) 中国 阿基里斯（佛山）新型材料有限公司・・・車輻素材
- 3) 既存・新設の海外製造・販売拠点を活かし、新規分野に挑戦
- 4) グローバルマーケットへの国内外生産拠点からの製品供給体制の最適化

[3] 人口動態に連動した課題解決のための事業育成

- 1) 超高齢化社会に対応した事業の推進
- 2) 食品ロス対策、農産品の国内自給率向上のための事業強化

② 新規事業(用途)の確立・創出

[1] 防災事業の拡大

当社グループの総合力を活かした新製品の開発による災害対策・防災・感染症対策製品事業の強化

[2] 中間財の高品質化による新規用途の創出

機能性フィルム、機能性発泡材料の開発推進

[3] グループ間における経営資源の有効活用

「多岐にわたる製品群×多様なマーケットのお客様」の有効活用による新規事業の創出

③ 既存事業の再構築

シューズ事業の収益性改善

- 1) 「瞬足」「アキレス・ソルボ」「BROOKS(ブルックス)」等の主力製品への集中
- 2) 「瞬足」「アキレス・ソルボ」のアジア圏への拡販推進
- 3) 国内生産終了に伴う効率的な事業運営組織への変革

④ 経営基盤の強化

[1] 温室効果ガス排出量削減に関わる取り組み強化

- 1) 顧客起点に立ち、省資源、省エネルギー、温室効果ガス排出量削減も考慮した迅速な新商品開発
- 2) 再生可能エネルギーの積極的使用など、温室効果ガス排出量を極小化した生産活動の推進
- 3) 物流改革による温室効果ガス排出量削減および収益性改善

[2] 生産性の向上

- 1) スマートプロセス・デジタル技術による、すべての業務を対象とした生産性向上
- 2) グローバルな事業展開およびDX等を牽引する人材の育成、多様性も尊重した働き方改革の推進による労働生産性の向上

(2) 財務・資本戦略

資本効率性の向上及びバランスを考慮した財務・資本戦略の実行

- [1] 技術優位性の確保と収益性向上のための投資(設備・研究開発・M&A等)
- [2] 政策保有株式の縮減
- [3] 総還元性向を意識した安定的かつ継続的な株主還元

(3) 非財務戦略

① サステナビリティ経営の推進

[1] 温室効果ガス排出量の削減

- 1) 環境負荷の少ないエネルギー・素材・製法への段階的な転換による生産体制強化
- 2) バイオマス・リサイクル素材を活用した新製品開発
- 3) 温室効果ガスの削減に貢献する製品事業の強化・拡大
- 4) サプライチェーン全体での温室効果ガス削減に向けた取引先との連携強化

[2] 人的資本経営の推進

② ステークホルダーとの対話、情報開示の充実による成長ストーリーの共有

- [1] IR体制・活動の強化
- [2] 決算説明資料や当社ホームページの情報刷新
- [3] 英文開示の拡充